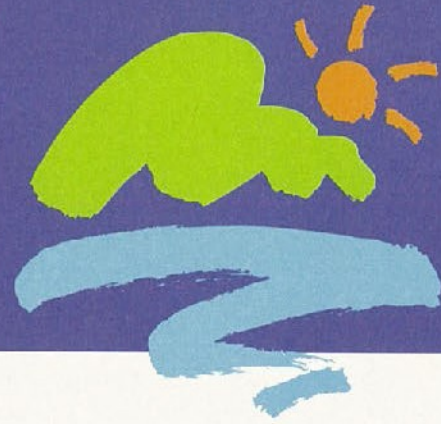


国土交通省 | 天竜川上流河川事務所

DATE: 令和3年7月9日



いのちとくらしをまもる
防 災 減 災

1. 件 名 河川愛護に貢献された皆様に感謝を込めて
—河川愛護月間表彰式—

2. 概 要 河川の美化、愛護に顕著な功績のあった個人・団体に感謝状を贈呈いたします。

表彰式 令和3年7月15日(木) 10:00~
天竜川上流河川事務所 2階会議室
(駒ヶ根市上穂南7番10号)

3. 資 料 裏面のとおり

4. 解 禁 指定なし

5. 同時配布 伊那記者クラブ、駒ヶ根市記者クラブ、飯田市記者クラブ

6. 問合せ先 国土交通省 中部地方整備局
天竜川上流河川事務所

副所長 かとう ひろし
加藤 博

管理課長 すみだ ともたか
隅田 知孝

電話 0265-81-6414

令和3年度 中部地方整備局長表彰 (団体 3件)

団体名	功績等
<p>にしはるちかじちきょうぎかい 西春近自治協議会</p>	<p>1. 活動内容 伊那市西春近の天竜川において、河道内樹木伐採、外来種（アレチウリ等）駆除、不法投棄物回収を実施している。</p> <p>2. 活動従事年数 56年以上</p> <p>3. 年間活動日数 約5回</p> <p>4. 活動延長 天竜川右岸 樹木伐採 約0.4km 河川清掃 約5.4km</p> <p>5. 活動1回当人員 約50～300名</p> <p>6. 説明（功績） 地元自治会として、永年にわたり、河川の美化・愛護の向上に資する多岐にわたる活動を企画、実施してきている。その成果として河道内の再樹林化防止、外来種等の減少、河原への流域市民の回帰等の変化をもたらしている功績は、表彰に値するものである。</p>
<p>まつかわまちつつぎやまじのぎくほ ぜんきょうぎかい 松川町ツツザキヤ マジノギク保全協 議会</p>	<p>1. 活動内容 下伊那郡松川町の天竜川における貴重種ツツザキヤマジノギクの観察会、保護活動とともに、特定外来植物（オオキンケイギク等）の駆除を行っている。</p> <p>2. 活動従事年数 12年</p> <p>3. 年間活動日数 生育調査、外来種駆除で 5月, 10月, 12月, 3月（10日程度）</p> <p>4. 活動延長 天竜川右岸 約0.2km</p> <p>5. 活動1回当人員 約20～30名</p> <p>6. 説明（功績） 地域の関係者（地域住民、自治体、研究者）を集めた保護のあり方を考える意見交換会を主催し、保護活動を継続している。ツツザキヤマジノギクの生育地である河川敷の外来種駆除も行っており、これらの活動は、河川環境の保全、向上に資しており、表彰に値するものである。</p>
<p>てんりゅうがわがりゅうきょうふっか つぷろじえくと 天竜川鷺流峡復活 プロジェクト</p>	<p>1. 活動内容 天竜川鷺流峡における河川内法面の放置竹林伐採による環境保全、ゴミ不法投棄の予防活動を実施している。</p> <p>2. 活動従事年数 6年</p> <p>3. 年間活動日数 12月～3月（冬期伐採は ほぼ日常的に活動）、4～11月（2回/月）</p> <p>4. 活動延長 天竜川右岸 約2.0km</p> <p>5. 活動1回当人員 約1～50名</p> <p>6. 説明（功績） 放置竹林が溪谷内へのゴミ投棄しやすくしていると考え、平成25年舟下り船頭有志4人で川岸から竹林整備を開始。整備を継続するうち地元（飯田市竜丘地区）住民が徐々に参加、平成27年に団体を発足。天竜川（主に鷺流峡右岸）における放置竹林の伐採、里山の保全活動を実施しており、法面崩落の防止や竹林内のゴミ回収を行っており、不法投棄予防にも取り組んでいる。伐採した竹で「竹いかだ」を制作して川下り、湯を沸かすための「燃料」利用し「足湯」に、幼竹を収穫して「メンマ」加工して販売など、資源循環と活動の経済的自立を目指すユニーク活動を行っている。小中高生等とも河川環境保全・再生活動を一緒に行い、環境教育にも貢献されており、表彰に値するものである。</p>

令和3年 河川功労者表彰の紹介 主催（公社）日本河川協会

団体名	功績等
<p>みぶがわみらいかいぎ 三峰川みらい会議</p>	<p>1. 活動内容 外来種駆除、河道内樹木伐採、水生生物調査、流域市民への河川愛護の啓発（フォーラム、写生大会、三峰川まつり、源流探検 等）、流域に関わる各行政との懇談会</p> <p>2. 活動従事年数 約19年</p> <p>3. 年間活動日数 約20～30回</p> <p>4. 活動延長 天竜川水系三峰川 沿川</p> <p>5. 活動1回当人員 約10～160人</p> <p>6. 説明（功績） 多年にわたり河川の自然保護・河川愛護活動等の多岐にわたる企画を実施してきており、その結果として外来種（アレチウリ）の減少、河原への流域市民の回帰等の変化をもたらしている。</p>